

在支邦人企業の過去及將來

栗 山 茂

一、緒

論

四、在支企業に對する障害

二、在支邦人企業の萌芽

五、在支邦人企業の將來

三、在支邦人企業の發展

一

昨年七月末、廣東國民政府が北伐軍を起して長江沿岸に進出するや、一舉にして武漢を陥れ、僅々數箇月の間に湖南、湖北、江西、浙江を従へ、更に破竹の勢を以て江蘇に迫り、最近には南京上海をも占領し、既に長江以南をその掌中に收めた上更に北進して北方軍閥と對抗し、今や全支那を風靡せんとするの概を示して居るが、此の驚くべき新興勢力の本質並に將來如何は獨り支那のみならず、全世界の耳目を聳動せしめつゝあるものにして實に支那現代史に於て特筆すべき劃時代的重大問題といふべく、殊に政治的に經濟的に社會的にその他あらゆる

方面に最も緊切なる關係にある我國としては、極めて深甚なる考慮を要する事勿論である。又一方最近支那に於ける勞働問題は益々惡化し、殊に北伐軍の漢口に進出以來勞働者の横暴は更に甚しく、一時は勞働者の工場管理をさへ傳へらるゝが如き情勢を醸せしを以て、在支事業家は頗る脅威を感じ、防備を全部軍隊に依頼して日本人従業員は引き上げを決行せんとまで決心を固めつゝあるといふに於ては、事業經營者は固より國家としてもこれ程重大時期に面した事がないのである。是等の運命が果して如何になり行くべきか、最近漸く漢口南京事件解決の曙光が見え初めたりとは云へまだゞ樂觀を許さぬものがある。

二

支那に於ける邦人企業は茲數十年間に目覺しき發展を遂ぐるに至つた。斯く在支那人が今日の如き長足の進歩をなすに至つた端緒は實に一八九五年の日清下關條約によつて外人が支那に機械の輸入と工場建設の自由とを享有せし以後の事に屬する。勿論下關條約以前に於ても、外人の開港場にありて居住し通商貿易に従事する事は認められて居つたが、未だ製造工業については何等明確な規定はなかつた。而も當時支那に於ける機械工業も所謂軍用工業時代から官督商辦時代に入つた許りの時代で、外人にして支那に於て工場經營を企てるもの未だなく、之等の必要をさへ認めなかつたのである。然るに一八九五年下關條約の締結にし、日本政府は早くも將來支那に於ける邦人企業の勃發すべき事を豫測し、講和條約中に次の如く規定するに至つた。即ち

「日本國臣民は清國各市場開港場に於て、自由に各種の製造工業に従事する事を得べく、又所定の輸入税を拂ふのみにて自由に各種の機械類を清國に輸入する事を得べし。

清國に於ける日本國臣民の製造に依る一切の貨物は、各種の内國運送税、内地税、賦課金、取立金に關し、又清國內地に於る倉入れ上の便宜に關し、日本國臣民が清國に輸入したる商品と同一の取扱を受け、且つ同一の特典免除を享有すべきものとす」

斯の如き條約が日支間に締結せらるゝや、諸條約國は何れも最惠國條款によりて此れに均霑し、茲に外人の支那開市場に於て自由に製造工業を營むの權利は確定せらるゝに至つたのである。其の結果歐米人の上海を中心とする交通便利なる開市場に、生糸、燐寸、製粉、製茶等各種の事業を經營するもの俄かに増加し、斯くして外資と、技術との輸入は、舊式支那固有産業に革命を惹起せしめるのみならず、其より以前に支那官民に依つて設立せられたる洋式工場も忽ちにして市場獨占の權を奪はれ、剩へ市場より驅逐さるゝの情勢をさへ惹起するに至つたのである。然るに肝心の條約當事國たる日本はその初め支那で工場を經營するよりも、寧ろ内地で經營する方が好都合であるとして居た爲、在支企業經營者としての對支進出は遙かに歐洲の先進國に遅れて居た。其の後日露戰爭の結果支那に於ける我が政治的勢力は俄然伸張し、爾來幾多の利權が獲得せらるゝに至つたのであるが、當時尙海外投資をなすだけの餘裕がなかつた爲、折角の利權も徒らに放任するの外無かつた。

然るに他方下關係約の結果歐米人の支那に工場を經營するもの頗る増加し、之に刺戟せられたる支那官民は漸

く産業的に覺醒するに至り、所謂利權回收時代を招來し、田を典し、囊を拂つて洋式工場の設立に狂奔したのである。尤も斯の如き一時的熱狂的盲目的事業勃興は當然の結果として國內工業を行き詰らせ、従つて大恐慌の一原因をなすに過ぎなかつたのであるが、爾後漸く人心の沈靜に赴くと共に、比較的冷靜にして而も妥當なる土貨振興國產獎勵の聲と變じ、遂に支那工業は健全なる發達道程を辿るに至つたのである。

斯くして民國成立以來支那に於ける各種の製造工業は急速なる發展を遂げ、殊に支那關稅の改正に勢を得たる支那内地外國型製品は、諸外國輸入品に優に對抗するに至つた。而も茲に我が國民として見通し得ない事は、當時支那に勃興しつゝあつた工業が、何れも主として我が國現下の中心工業たる纖維工業、雜貨工業又は之に類する簡易粗製工業に限られて居つた事實で、即ち各種の日用小雜貨類その他所謂簡易工業製品は殆んど一として支那自國製品の市場に現れざるものなき狀態であつた事である。かくて數次の支那關稅の引き上げは益々支那製品をして有利なる地位に置きつゝあるが由來支那を以て米國に次ぐ最も重要な輸出市場とせる我が國はその輸出品に甚大なる影響を蒙るに至り、茲に我が國工業を現在の粗工業中心主義より漸次精工業中心主義に轉化せしむると共に、宜しく粗工業は支那に移動せしめ以て母國工業の向上と安定とを計り、兼ねて將來恐るべき支那工業に對抗するの策の有利なるを絶叫せらるゝに至つたのである。

三

支那に於ける邦人の事業投資額は滿洲關係及借款其他の債權を除いても尙五億圓に上り、就中紡績事業投資額だけでも約二億七千萬圓と數へられて居るが此等の運命は如何になり行くべきであらうか。更に我が對支貿易に就いて見るも近年著しき發達を遂げ、昨年 of 如きは、輸出五億二千萬圓、輸入二億五千萬圓合計約八億圓に近き有様であり、對支貿易に於て主位を占むる英國をすら凌がんとするの盛況である。これが上にも亦惡影響が及ばないであらうか。

抑々之等支那に於ける諸事業は、我が國の經濟的發展の最前線に立つ先驅者によつて過去數十年來苦心慘澹、幾多の犠牲を拂ひ、拮据經營の結果漸く今日の地盤を築き上げたものである。然るに支那革命の犠牲となり、一朝にして數十年の長きに亘る最も貴重なる事業の基礎を覆へさるゝの危險ありとすれば、それは雄々しき一大事にして、又國家的に見て極めて重大な損失と謂はねばならぬ。我が國の對支企業殊にその主要部分をなすものは即ち紡績業にして、その行はれたる根本原因は我が國の資本主義發達の結果國內市場を基礎とする生産から世界的市場に基礎を樹立する一部面として支那を選んだのであるが、その範を示したるものはやはり歐米諸國の資本家が自由なる經濟市場として支那に着目したに始まる。而してその間幾多の困難障害あるに拘らず當時切りに支那に工場移轉が唱へられ、一時内地資本家に一種の風潮をさへなしたその直接原因としては、支那輸入關稅の増徴、支那勞働者職工の賃銀低廉、一面に於て内地勞銀の昂騰等であるがその他種々の條件と相俟つて邦人紡績の對支發展は一九一二年内外綿會社が上海に第三工場を開設したのを始めとして、續々その開設を見、僅か十數

年の短日月の間に異常の進歩發展を遂げ現在滿洲方面を合して五二工場、鍾數一、三二六、九二〇に達し、織機七二〇五臺を計上し、鍾數に於て支那總數の約四割、後者はその約三割を占めその投資總額は實に二億七千萬圓の巨額を算するに至つたのである。

この點に於て吾人はその經營者の非常な努力と才能に對して多大の敬意を拂はざるを得ないのであるが、併しこの二億數千萬圓といふ大事業に對し拂はれたる經營者の苦心慘澹たる努力は、所謂資本主義の本質たる資本萬能主義の弊に陥り、動もすれば時代思潮の趨向に對する認識を缺がざる迄も尠くともこれを第二義的に考へ、比較的等閑に附したる嫌がなかつたであらうか。勿論最近に至つては勞働條件の改善を目的とする純經濟的爭議であれば如何に大問題でも解決の可能性はあるも、政治的に利用されて居るのだから何とも手の下しやうがないといふ程度の理解は持つて來たやうであるが。尠くとも僅々數年前迄は支那といふ特殊狀態にある國の勞資關係が如何なる道程を辿るべきものであるか、又必然的に將來重大な危機を孕んで居るといふ事に就ては殆んど考へ及ばなかつた事である。

通例過去の歴史を見るに、何れの國に於ても斯る大變革期に際しては動もすれば常軌を逸し、多少の混亂と犠牲は免れ得ないものであるが、殊に支那現在の時局が内部に封建的要素と近世的要素との鬭争を藏して從來の如く歴史的意義を有せざる無意義の鬭争でなく、その國民的希望としての革命を達成せんとする變革對内問題であると同時に自國內に於ける反革命的外國の政治經濟的勢力排除をその主要なる目的として居るだけに、外國の蒙

る影響は非常なものであり極めて重要な性質を有するものである。

四

近代の革命戦術の一として労働罷業の利用が盛んに行はれるやうになり、近代社會階級闘争の最も巧妙なる一手段として用ひられて居るのである。

元來罷業なるものは労働條件の合理的改善を目的とする純經濟問題たるべきものであると考へられて居るが、例へそれが純經濟問題たる性質を有するものであるとの見解を正しきものとしても經濟と政治との不可分關係を否定する事が出来ない。國民中最も多數を占むる無產階級中の比較的統制ある有力分子がその根本的自己の立場即ち政治社會的に其の改善を要請する所の政治運動乃至は革命運動に參與し、その運動を有効ならしむる爲その唯一の武器たる罷業を以てする事は當然である。殊に尙中世期末の如き支那に於ける無產階級は統制ある先進國の如くその立場を改善すべき何等の希望をも爲政者に懸け得ざる悲惨なる状態にあるを以て尙更ら見通す事が出来ないのである。而も支那の産業状態は極めて幼稚にして資本主義發生の豫件たる産業革命の一步を踏み出した許りの域を脱せず、それ自身の資本主義なるものは近年漸くその萌芽時代に這入つたに過ぎず、未だ充分なる組織が構成されて居ない。従つて現在支那に於て最も隆盛を極むるものは、主として纖維工業、殊に紡績工業であるがその中外國人の經營に屬するものは其約半數を占め、その成績も極めて良好にして遙かに支那工場を凌駕し

其の資本の充實、經營上の訓練、技術の巧拙等諸種の點に於て到底外人經營工場に及ばず、やゝもすればその勢力に壓倒さるゝ傾向にあり、最近勞働爭議の頻發により支那人工場より以上の支障を來せるに拘らず尙相當の成績を挙げつゝあるのである。かくの如く紡績業のみならずその他各種事業に於ても外國人の資本的勢力は極めて強大なるものがある、即ち支那に於ける近世資本主義の核心をなすものは外國資本そのものであるといつても敢て過言ではなく、從つて支那の革命的諸運動が特殊性を發揮する所以である。

故に近世資本主義と不可分の關係にある勞働運動が外國人の資本主義的勢力の下に於て多く起るべき可能性を有し、その運動が動もすれば民族的な理解、偏見等に原因して自國の資本家に對する場合と比較して一層劇烈且深刻味を加ふべきは明かな事である。この場合國內資本家は自己の利益より勞働者を應援し外國資本家に對抗する一方國民も亦民族共同感情の下に統合され、内争をつゞけながらも外國資本家の前に所謂共同戦線を構成し、共に起つて外國資本主義の本壘に向つて突進せんとするものである。かくて勞働階級の唯一の武器たる同盟罷工又は總同盟罷業等となつて現れるものであるが、その統制力が強ければ強い程その威力は恐ろしいものである。最近香港、廣東、上海乃至は漢口、青島等に於て行はれた眼前の事實は雄辯にそれを證明して居るのである。殊に最近支那に於ける諸運動の原動力が第三インターナショナル系の共產主義的信條の下に進行しつゝある以上尙更らその重大性を感じるものである。

五

如斯頻發する罷業たるや抑々前述の如き原因により爆發するもので、此等の原因の存在する限り、換言すれば支那から之等の經濟的勢力の除去せられざる限り永久に幾回となく繰返さるべきものである。而も我が國は勿論列國に於ても其要求が、眞に近時支那人の對外政策のモットーたる反帝國主義不平等條約の撤廢といふやうなものならば、吾人は心より之に同情し、その合理的なる目的達成に對して毫も努力を吝むものではないが、併しその終局の目的が支那から列國の經濟的勢力を根本的に驅逐せんとするが如き無法なるものである以上、固より承認さるべき筈がないのである。而も前述の如く永久に排外運動終熄の見込なしとすれば我が支企業は彼地に優勢を保持する以上、常に尙一段と罷業暴動の苦汁を嘗めなければならない、而してその根本解決たるや極めて困難なる問題であるが、さりとて之が對策を講ぜざる時は禍を將來に貽すのみか、かくては十數年の必死の努力によつて漸く築き上げたる我が對支勢力の地盤を根本より覆されるやも測られず、我が産業立國の前途に残された唯一の對支發展も、遂に悲慘なる終焉を告げなければならないのである。これ誠に我が國策上容易ならぬ問題である。此の意味に於て一刻も早く支那國民をして在支外人企業の必要不可欠の所以を自覺せしめる様努むると共に他面(一)在支邦人企業者の自覺、(二)日支兩企業家の隔意なき了解と提携、(三)名實相具ふる日支合辦事業の獎勵の三大方針の下に、支那人一般の感情を融和し共存共榮の理想に到達せしむるやう共に努力することが肝要であ

る。而して之が先決問題としては支那民衆の自覺を促す事であるが、世の識者間にはこの策の成功困難を察してか、餘りこの點を顧慮せないやうである。然しながら之こそ凡てを解決する大根本策で、これが期待し得ぬ以上如何なる方策を以てするも僅かに罷業暴動の起る機會を僅少ならしむる効果あるに過ぎずして永久に根絶せしむる事を得ないであらう。蓋し現在行はるゝ支那の勞働爭議は前述の如く大體に於て其賃銀の値上、職工の待遇改善等の要求は第二次的のもので、寧ろ支那の經濟的獨立を得んが爲の一手段たるに過ぎない以上、單に企業者の自覺によつて所謂溫情主義を施し、賃銀の値上職工の待遇改善等に如何なる努力を拂ふとも、在支企業が全然撤退するか又は排外運動の目標に徹底的の變化の來さない限り、決して罷業を根絶する事が出来ないからである。固より我が國として在支企業の撤退は一方多年の努力に鑑み、他方我が國粗工業の對支輸出が我が國策上必要不可欠の問題たる點から云つても、到底なし得ないものである。坊間近時の如き在支企業の不安を見て到底その事業繼續の不可能なるを説いて邦人企業撤退説を極力主張するものもあるも、事實はそれ程まで切迫せるものとは思はれず、その議論の餘りに短氣的な點よりして輕々に賛成する事が出来ない。要するに現在の支那が急速に經濟的獨立運動を起すことの無謀なるを支那國民に自覺せしめ、在支外人企業の發展が支那をして他日經濟的獨立の地位に到達せしむべき一階梯なることを知らしめる事が目下の急務ではなからうか。

（調査時報、對露支貿易時報、東洋貿易研究、企業と社會參照）

（一九二七・五）